

「第 24 回修習技術者 研修セミナー」報告書

修習技術者支援実行委員会

委員補佐 笠松 功(農業部門)

委員補佐 後藤 充弘(電気電子部門)

1. 大会概要

日 時 平成 23 年 11 月 12 日(土)

13:30～13 日(日) 17:00

主 催 公益社団法人日本技術士会

修習技術者支援実行委員会

会 場 大橋会館(東京都目黒区)

2. セミナーの内容

11 月 12 日(土) 1 日目

| | |
|---|------------------------------|
| 1 挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長 | 13:30～13:40 榊 勲 |
| 2 オリエンテーション 修習技術者支援実行委員会 委員 | 13:40～13:50 中嶋 幸宏 |
| 3 講演 『再生 –それはそこに携わる人たちの“思い”の集大成–』 八方尾根開発(株)統括本部執行役員 | 13:50～15:20 倉田 保緒氏 |
| 4 事例発表 修習技術者支援実行委員会 委員 修習技術者支援実行委員会 委員補佐 | 15:30～16:10 狩野 恭子 川村 智 |
| 5 グループ討議(Part I) | 16:10～17:50 |
| 6 情報交流会 | 18:00～20:00 |
| 7 ナイトミーティング | 20:00～ |

11 月 13 日(日) 2 日目

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 グループ討議(Part II-1) | 9:30～11:10 |
| 2 アドバイス・タイム 修習技術者支援実行委員会 委員 修習技術者支援実行委員会 顧問 | 11:10～11:30 渡邊 喜夫 吉川 博晴 |
| 3 グループ討議(Part II-2) | 11:30～15:00 |
| 4 発表および質疑 | 15:15～16:30 |
| 5 講評 修習技術者支援実行委員会 副委員長 | 16:30～16:45 原 洋介 |
| 6 修了式 修習技術者支援実行委員会 委員長 | 16:45～17:00 榊 勲 |

【1 挨拶】

修習技術者支援実行委員会の榊委員長より、年間の研修会における当セミナーの位置づけ・テーマ・受講にあたっての心構

えが説明された。



写真 1：挨拶

【2 オリエンテーション】

修習技術者支援実行委員会の中嶋委員より、グループ討議の課題・目的および、進行におけるキーポイント・注意事項が説明された。また、各グループのコーディネーターが紹介された。

◆ グループ討議課題

『「人々を幸せにする技術者を目指そう」
—何を心がけて技術を提供すべきか—』

◆ コーディネーター(いずれも技術士)

グループ 1: 中村聡委員(建設部門)

グループ 2: 高橋渉氏(電気電子部門)

グループ 3: 川村智委員補佐(情報工学部門)

グループ 4: 関高行委員補佐(上下水道部門)



写真 2：オリエンテーション

【3 講演】

八方尾根開発(株)執行役員の倉田保緒氏から、当セミナーのグループ討議に参考となる話題で講演が行われた。

倉田氏は、数多くの観光地や観光施設の企画だけにとどまらず、再生にも携わってきた。大型レジャー施設及びスキー場の再生を事

例として挙げた。2つの事例の成り立ちから再生までの道のりを示し、同時に倉田氏が自らの取組から感じたことを述べた。

倉田氏は受講者への助言として、自らの取組から感じた中で「いつも自分・自分たちを俯瞰する目を」「何のための自分の仕事なのか」「お客、エンドユーザーの笑顔をイメージした仕事を」「ことを成すのは携わる人たちの思いが全て」などを示した。それらは、『「人々を幸せにする技術者を目指そう」-何を心がけて技術を提供すべきか-』の成果を導き出すためだけではなく、受講者の日々の仕事に大いに役立つ助言であった。



写真3：倉田保緒氏の講演

【4 事例発表】

事例発表として、近年に技術士を所得した、修習技術者支援実行委員会の狩野恭子委員(生物工学部門)及び同委員会の川村智委員補佐(情報工学部門)の両2名より、修習技術者から技術士取得への経緯に加え、取得後の技術士としての活動が発表された。

◆ 狩野恭子委員の事例発表について

発表内容は、狩野委員が技術士を目指した理由に始まり、修習活動から技術士取得後の利点であった。

狩野委員は業務で顧客対応・検証試験・製品説明を行う中で、製品開発につながる発展的仕事をしたいと思う様になり、その思いを実現させるため、技術士を取得して、上司に実力を示そうと考えた。

取得に向けて様々な視点から仕事に取り組むだけではなく、学会や技術士会の生

物工学部会に参加し、最新の情報を集めるだけではなく、業務実績のプレゼンテーションも行った。これらの積極的な修習活動が、技術士取得につながった。

取得後は、大学院博士後期課程へ進学して博士号を取得し、更なる研鑽を行うことにより、技術士を最大限に生かした仕事を行えることにつながった。また、技術士を取得したことにより、技術士会の部会・委員会活動において、他部門の技術者と知り合い見識を広げられたという。

最後に狩野委員から参加者へ、技術士としての自分像を描くことで受験勉強のモチベーションを維持し、取得後は技術士の資格に甘えない気概を持ち、仕事に取り組むべきとの心構えが示された。



写真4：狩野恭子委員の事例発表

◆ 川村智委員補佐の事例発表について

発表内容は、セミナーのテーマに沿った修習技術者時代の業務内容に加え、技術士取得後から今後の活動内容であった。

川村委員補佐は大学卒業後、入社して希望の制御システム担当に配属されたが、異動により他の業務に携わることとなってしまった。

しかし、異動は川村委員補佐にとって、それまでの自分では気付かなかった能力を自覚することにつながり、異なる専門技術の習得と実践の機会を得ることが出来た。また、海外業務を経験することにより、国際感覚の重要性を実感したという。

帰国後の業務を通じて社会に貢献するとともに、技術士と出会うことにより、技術士取得を目指す様になった。

そして、更なる新分野へ挑戦することにより、技術士取得へつながったという。

今後は、海外での製品発表を予定しているなど、技術士に求められる積極的姿勢を受講者に示した。



写真 5：川村智委員補佐の事例発表

【5 グループ討議 Part I】

各グループ共に自己紹介から始まった。自己紹介では、技術士取得の動機や自身の仕事に対する技術者としての立場からの考えを話していた。

コーディネーターから、討議の目的が説明されたうえで、参加者各々が自身の業務上立場からみた、討議課題に対する見解等を述べていた。そして、各々の見解等を基に、各グループ共にキーワードを上げながら討議を進めた。

討議の途中、円滑に討議を進めるため、各グループのコーディネーターが、適宜助言を行った。



写真 6：グループ 1



写真 7：グループ 2



写真 8：グループ 3



写真 9：グループ 4



写真 10：グループ討議全体の様子

【6 情報交流会】

夕食を兼ねた情報交流会が、受講者・講師・運営側の全参加者が参加して、活発で明るい雰囲気の中で行われた。

また、全受講者・講師の倉田氏・グループコーディネーター等によるスピーチが行われ、大いに盛り上がった。



写真 11：情報交流会

【7 ナイトミーティング】

情報交流会終了後、セミナー実施会議室において、情報交流会よりも自由な形で行われた。

いくつかのグループに分かれ、仕事・時事問題・技術士二次試験に関すること等、多岐にわたる内容での談笑となった。



写真 12：ナイトミーティング

平塚副委員長による2日目の予定等の説明の後、グループ討議を開始した。



写真 13：平塚副委員長

【8 グループ討議Ⅱ - 1】

G1：ホワイトボード、模造紙及び付箋を用いて、ダイナミックに展開し、しばしばメンバー全員が立ち上がって議論する等、他班よりアクティブさが目立った。

G2：はじめは物静かに A4 紙に書き出した事柄中心に議論をしていたが、次第に模造紙と付箋も活用し始め、活発な動きも出始めた。
G3：コーディネーターの川村氏が昨日の事例発表で話題とした「Z 旗」をホワイトボードに貼っていた。また、付箋の活用も目立つ。PPT 作成を早い段階から行っていた。

G4：はじめは静かに議論を深めている様子だったが、次第に全員が立ち上がって付箋を操作しての検討を行うようになっていった。

全般には、10:15 頃に最初の休憩を入れる班がでてきた。10:45 頃には緊張もほぐれてきたのか、声も大きくなってきて、賑やか感がでてきた。



写真 14：Z 旗

【9 アドバイスタイム】

渡邊委員：「技術士プロフェッション宣言」を話の導入に使われ、医師制度と技術士制度に触れ、人を幸せにするという点などの共通性を語られた。また、現在ご自身の業務で力を入れている事柄や、前日の倉田氏の講演について言及された。



写真 15：渡邊委員

吉川顧問：ボードにあったここの旗「Z旗」に言及し、発表においても各自思い残しのないようというのであった。どの班も同じような結論では面白くないので、タイムマネジメントには注意しつつも、各自の立場を明確にした、それぞれの色のついた発表を促された。



写真 16：吉川顧問

【10 グループ討議Ⅱ - 2】

12:15 頃から昼食に入る班が出てきたが、G4 は少し遅れて昼食に入った。

各班内の役割分担や進捗の様子から

G1：あえて役割分担を決めないこととしたが、PPT の作成などは自発的に行われており、滞りは無いようだった。

G2：リーダーは阿部氏、書記は前田氏、発表は坂東氏、タイムキーパーは小川氏と明確に役割分担を決めていた。

G3：リーダーは野口氏、書記は太田氏。昨年の受講者だったコーディネーターの川村氏の経験から議論の進め方と PPT の作成のバランスがよかった。

G4：リーダーは三島氏、書記は福壽氏。議論展開に迷いがあったのか PPT 作成のペースもやや遅い感はあったが、次第にうまく収束していった。

ホワイトボード上にスケジュールを書いていたのは G1 くらいだったが、タイムスケジュールで大失敗の班は無かったようである。

【11 発表及び質疑応答】

G1 発表時は G4 が主な質問者となり、以下 G2-G1、G3-G2、G4-G3 という組み合わせで発表を行った。

G1: 課題 1 は安部氏が発表し、以下課題毎に池田氏、伊東氏、山本氏、岩佐氏と全員が発表を行った。「技術者は人々を幸せにする使命がある！！」といった結論などがあった。

G2: チーム名を「SGS48 (修習技術者 48)」とした。PPT にイラスト (テクノ君) を入れたところが大きな特徴であった。また、日本再生をテーマとして考えた。

質疑応答で、関氏が課題 1 及び 2 が抜けていることを指摘すると、抜けてはしまったが、課題 1 と 2 の内容を考慮して他の課題にあたっていた旨の回答であった。

G3: チーム名を「リボビタン Z」とした。課題 1 と 2 を菅原氏、課題 3 を石附氏、課題 4 を太田氏が発表した。PPT はよく図化されたものであり、分かりやすいものであった。質疑応答で安部健太氏の問より、各自がそれぞれの決意を回答した。

G4: チーム名はメンバーの三島氏が岐阜から参加されたことなどから「関ヶ原」とした。前半を宇都宮氏、後半を三島氏が発表した。課題 3 での表化などで見るべきものがあったが、議論時の時間進行が良くなかった等の反省もあった。

全体質疑応答では、中嶋氏より G1 の実施計画のユニークさはとても新鮮で興味深かったとの感想があった。また、奥田顧問より修習技術者としての課題に関するの問いかけがあり、各班から代表ひとりがそれに答えた。



写真 17：テクノ君



写真 18：発表の様子



写真 20：原副委員長

コーディネーター感想

中村氏：役割分担無しは賭けだったが、活発で密度の濃い議論ができ、自身の収穫にもなった。反省点としてモチベーションが下がる時は全員一緒になってしまった。

高橋氏：発表ではテクノ君のイラストが全PPTに入るなどの特徴を持ち、決められた時間内にうまくまとめられた。役割分担もうまくいった。初日に外に飲みに行ったこともよかったのでは。

川村氏：時間通りに進み、役割分担もうまくはまった。全員モチベーションが高く、特に菅原氏はこのような場でのノウハウを得られたのでは。

関氏：コーディネーターとしてはもう少ししゃべってもよかったかもしれない。本筋の議論にうまく時間を割けなかったのが反省点としてあり、今後、メンバーには今回のセミナーの経験を活かして欲しい。



写真 21：高橋裕二先端研副会長

【12 修了証授与】

榊委員長より各班の代表に修了証が授与された。

今回のPPTは後日コーディネーターの感想を付けて受講者へ送付される旨のお知らせ、次回修習セミナーの案内、小林進顧問による電子情報通信学会での技術士会関与の行事に関する案内等をもって終了した。



写真 19：コーディネーター



写真 22：修了証授与の様子

【12 講評】

原副委員長は各班の特徴をかいつまんで取り上げ、今回の経験を業務にも活かして欲しい旨を述べられた。次いで、高橋裕二先端研副会長の先端研案内へバトンタッチされた。高橋氏はユーモアを交えて受講者へ先端研発表の効を説かれた。

以上